

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3870601号  
(P3870601)

(45) 発行日 平成19年1月24日(2007. 1. 24)

(24) 登録日 平成18年10月27日(2006. 10. 27)

(51) Int. Cl. F 1  
**GO 1 N 31/00 (2006. 01)** GO 1 N 31/00 Q  
**GO 1 N 21/76 (2006. 01)** GO 1 N 21/76

請求項の数 1 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願平11-82688	(73) 特許権者	599035627
(22) 出願日	平成11年3月26日(1999. 3. 26)		学校法人加計学園
(65) 公開番号	特開2000-275237(P2000-275237A)		岡山県岡山市理大町 1-1
(43) 公開日	平成12年10月6日(2000. 10. 6)	(73) 特許権者	000004400
審査請求日	平成16年5月11日(2004. 5. 11)		オルガノ株式会社
			東京都江東区新砂 1 丁目 2 番 8 号
		(74) 代理人	100092303
			弁理士 三浦 進二
		(72) 発明者	山崎 重雄
			岡山県岡山市下伊福西町 1-7
		(72) 発明者	井上 洋
			東京都江東区新砂 1 丁目 2 番 8 号 オルガノ株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 沃素分子及び／又は沃化物の検出方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

トリス(2, 2'-ビピリジル)ルテニウム(II)錯体を酸化してルテニウムの酸化数を増加させ、次いで、得られるトリス(2, 2'-ビピリジル)ルテニウム(III)錯体と沃素分子及び／又は沃化物とを接触させる際に、系内に塩化ルテニウム(III)又は塩化鉄(III)と酒石酸又はグリコール酸及び／又はその塩を共存させ、化学発光を生じさせ、化学発光法を用いて沃素分子及び／又は沃化物の濃度を定量することを特徴とする沃素分子及び／又は沃化物の検出方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ハロゲン分子の一種である沃素分子及び／又はハロゲン化物の一種である沃化物を化学発光法を利用して、高感度で簡便且つ迅速に検出する方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

ハロゲン分子及びハロゲン化物は、漂白剤、殺菌剤、難燃剤としての用途のほかに、肥料、融雪剤、触媒、飼料や食品の添加物に用いられ、各種工業用薬品、医薬品、香料、染料、顔料等の原料として幅広い用途で用いられている。また、冷却水処理システム等の各種水処理システムでも、例えば、不活性トレーサーとしてハロゲン化物が用いられ